



独立行政法人・森林総合研究所・東北支所

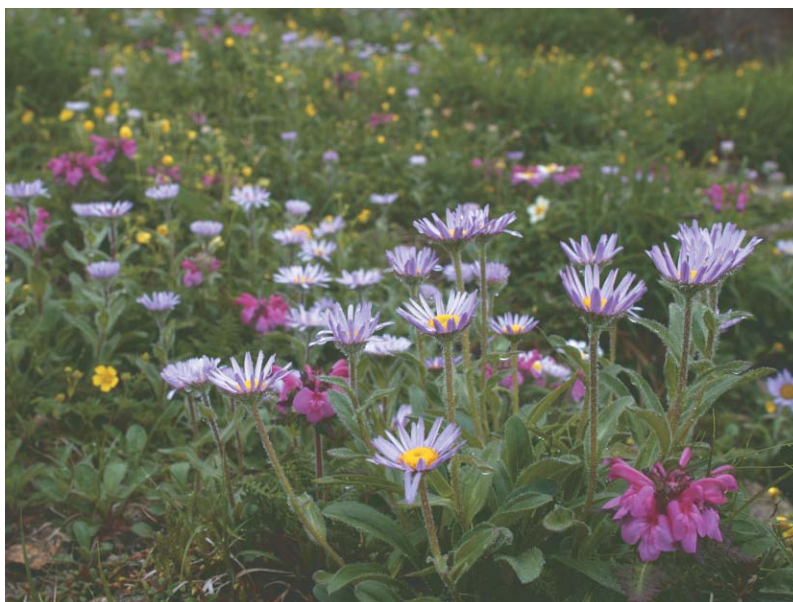
早池峰山の花は明日も咲く？



シカ分布拡大の脅威

シカの影響は自然植生にも

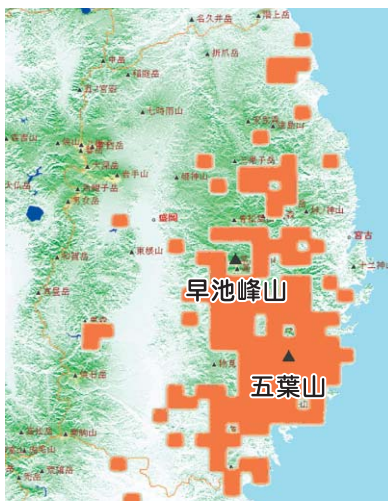
深刻なシカの農林業被害が長年続く一方で、シカは自然植生へも過大な影響をもたらします。過去20年以上の間に全国各地でシカの個体数増加と分布拡大が起こり、尾瀬や南アルプスなどにも侵入して高山植物を減少させています。



早池峰山頂付近のお花畑（7月初旬）

早池峰山の花

岩手県では、シカが古くからの生息地である五葉山地域から北側の地域へ分布を広げつつあり、早池峰山周辺にも出没するようになりました。北上山地の最高峰早池峰山(1914m)は、超塩基性の地質のため特異な植物群落が発達し、とくに中腹以上に広がるお花畑によって花の山として全国的に知られています。学術的な価値は極めて高く、伝統文化の源泉や観光資源としてもたいへん重要です。この山にシカが登る可能性はあるのでしょうか？



五葉山と早池峰山の位置関係
オレンジ色は現在のシカ分布
(環境省自然環境基礎調査による)



早池峰山のシンボリック的存在
ハヤチネウスユキソウ

◎ 早池峰山の雪はシカを防ぐか

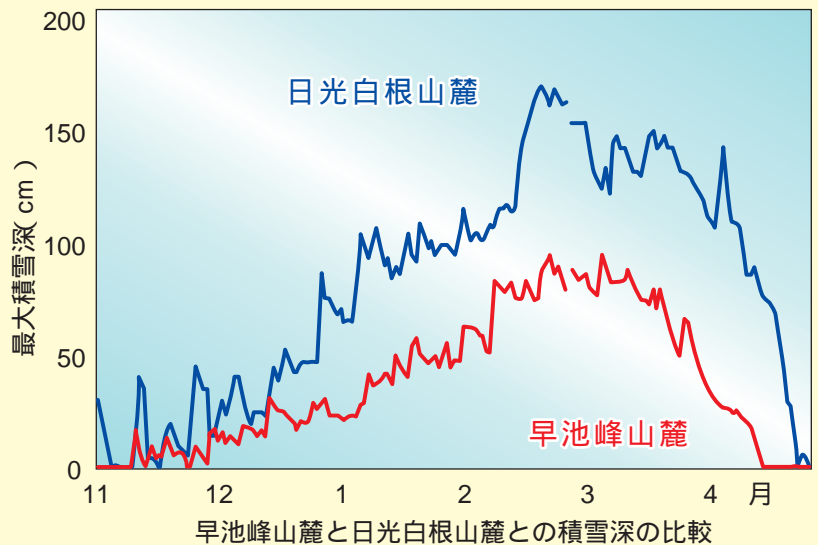
シカは雪が深いと行動できないので、そういう地域には分布しないといわれていました。そのため、先に述べた尾瀬や南アルプスにシカが侵入するとは予測されていませんでした。しかし、これらの実例は、少しくらい雪が多くてもシカが侵入するかもしれないことを物語っており、既に侵入した場所と同程度以下の積雪であればその可能性があると言えます。



日光白根山のシラネアオイ群落跡

シカの剥皮がめだつシラビソ林

ここで、具体的な数字で検討してみましょう。比較対象とするのは日光白根山です。この山も以前はシカが生息していませんでしたが、今では山頂までシカ糞が多数見られ、高山植物が食べられています。有名なシラネアオイ群落が消え、シラビソなど樹木の剥皮も深刻です。早池峰山と日光白根山の山頂から標高でそれぞれ1000m余り下ったところで観測した積雪データを使い、両者の観測記録が揃っている1984～1992年の最大積雪深を比較した結果、雪はむしろ早池峰山のほうが浅いことがわかりました（右図）。つまり、積雪が早池峰山へのシカ侵入を阻んでくれるとは期待できないのです。そして、シカが侵入すれば、日光白根山と同じく植生に甚大な影響が発生する恐れがあります。



◎ これからが勝負

シカ侵入が懸念されているのは早池峰山だけではなく、最も警戒を要する地域のひとつです。最悪のシナリオどおりに事態が進めば、自然植生の劣化、生物多様性の喪失、観光資源の損失など、取り返しのつかない事態を招きます。この危機を回避するには、継続的なモニタリングと個体群管理が不可欠です。分布情報を広範囲から迅速に集めるシカ監視網も構築しなければなりません。早池峰山はまだ間に合います。

森林総合研究所東北支所

〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25
TEL 019-641-2150 FAX 019-641-6747
ホームページ <http://www.ffpri-thk.affrc.go.jp/>

生物多様性研究グループ 堀野 眞一